

都道府県番号	
都道府県名	福 井

【 √ 】

学校名及び規模

学校名	福井市和田小学校（フロンティアスクール）								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	4	4	3	3	3		20	29
児童数	115	128	122	96	112	92		665	

研究の概要

(1) 研究主題

一人一人を伸ばす授業づくり
～基礎・基本の確かな定着をめざして～

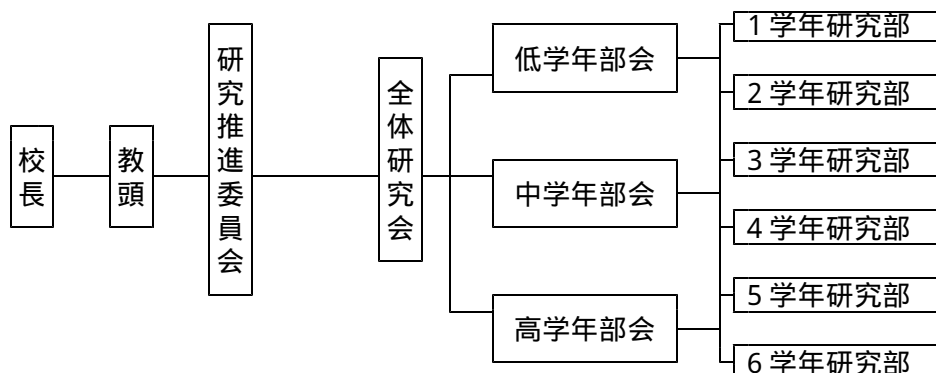
(2) 研究主題設定の趣旨

新学習指導要領が完全実施となって1年が経過し、時代を主体的・創造的に生きる力や自分自身で問題をよりよく解決する力の育成をめざす教育が本格的に開始された。本校では、昨年度からの取り組みとして、基礎基本を身に付け確かな学力を育成することが「生きる力」の土台づくりにつながるという考えを基に研究を進めてきた。

また、それは児童一人一人の持つよさを見つめ、個に応じたきめ細かな指導を行うことで実現するものと考え、授業づくりに重点をおいて実践を行った。昨年度から「学力向上フロンティアスクール」の指定を受けたことも、学力について考えるよい機会となった。

研究の概要（選択した観点を中心に記述すること）

(1) 研究推進体制の工夫



研究は学年部会を主体として進めるが、低・中・高学年部会においても共通理解を図ることとする。また、推進委員会は「算数科研究部」と「基礎学力研究部」の2部構成とした。

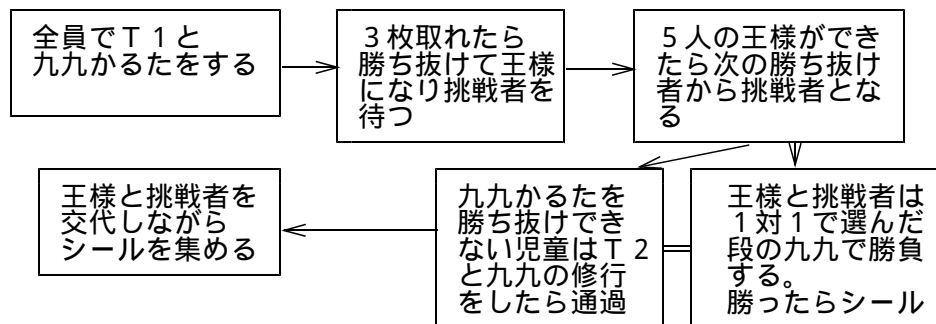
(2) 研究の実際

昨年度は主に個に応じた指導のための指導体制について研究を進めてきた。本年度は児童の理解を深めるための教材研究を中心に取り組んだ。

算数的な活動を取り入れて

(例) 第2学年「かけ算」 T・T(一部習熟度別)による指導

かけ算の習熟を図るため、ゲームなどを取り入れて次のような指導を実施した。



九九かるたのカードを3枚取るというゲームを通して、九九についての習熟度をある程度見とることができた。勝ち抜けた児童は次の段階の九九対戦で楽しく練習ができ、また、勝ち抜けない児童もT2と修行(練習)をすることで次のゲームに参戦でき、楽しさを味わうことができた。どの児童も意欲的に学習することができた。

興味関心を持ち、意欲的に学習する手立て

(例) 第3学年「重さしらべ」 T・Tによる指導

重さの学習が終わった後、さらに重さについて興味関心をもたせるために、T1とT2でいくつかの重さに関する問題を出した。

片足ではかりにのったときと両足でのったときでは、重さは同じかな。

荷物をついだときと足下に置いたときでは、重さは同じかな。

児童の意見は2つに分かれ、理由を考えながら話し合いを展開した。実際に実験して正解が分かると、「合っていた。」とか「おどろいた。」などと言いながら重さの不思議さ、おもしろさを感じていた。その後、「自分たちも重さの問題を作ろう。」と課題を出したが、その手がかりとしてさまざまな物を提示した。それらを参考にしながら、児童は意欲的に問題を作った。

- ・ さとうを水に溶かすと重さは変わるかな。
- ・ みかんの皮をむいて横に置くと重さは変わるかな。
- ・ 空気の抜けたボールは重さが変わるかな。 など

まず指導者から出された課題で、重さの不思議さにふれたので「自分もそんな問題を作ってみよう。」という思いから、児童は意欲的に問題を作ることができた。また、手がかりになるような物を準備したことはよい支援になった。

(3) 研究の成果と課題

<成果>

- ・ 12月実施の児童の意識調査では全校児童で次のような結果が得られた。

以前より算数が好きになった。	46%
よく発表するようになった。	51%
いろいろな考えで解くようになった。	60%
分からないと自分で調べるようになった。	54%

このように、教材や指導法を工夫することで算数に興味関心をもち、分からないことが出てくると進んで調べたり、他の考え方はないかと考える児童が多くなってきた。

< 課題 >

- ・ 今後はそれぞれの考えを友達に発表し十分話し合うことで、お互いの学び合いを深めるような手だてを工夫したい。
- ・ 算数科の研究で児童及び指導者の身についた力を、今後は他の教科・領域に広げていくような取組みが必要と考える。

(4) 研究成果の普及の方策

公開授業と授業研究会

福井高志地区の小中学校を対象に全4回(各回1授業)を公開し、その後研究会を持つことで事後の指導の改善を図る。

平成15年6月20日第5学年算数科 「変わり方」
7月 3日第6学年算数科 「平均とその利用」
9月18日第4学年算数科 「式と計算」
11月26日第3学年算数科 「重さしらべ」

学力向上フロンティア事業福井高志地区協議会(平成16年2月10日)において研究の実践報告と情報交換

参加者 ----- 福井・高志地区の各小・中学校の研究主任、参加希望の保護者
HP作成

研究のページでは、研究内容や公開授業の指導案などを公開。随時追加。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】 15年度からの新規校 4年度からの継続校

【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上

【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 一部教科担任制 その他

【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無

【特色ある取組事例としての紹介したいポイント】

算数科の単元内容を検討し、T・T指導、少人数指導、習熟度別指導などから、より効果的な指導法を選択して授業を構成する。
児童の理解を深め、思考の手助けとなるような教材・指導法を工夫する。

と を一つの表にまとめ「単元の工夫集」(各学年5単元)とした。